



西泰
箕作麟祥譯述
 勸善
 訓蒙
前編
 中

9
 3668
 2



西泰勸善訓蒙卷之中

第四篇 人ニ對スル務

第六十一章

人ノ此世ニ生レタルハ己一身ノ爲メノミニア
ラス國ノ爲メ他人ノ爲メ族人ノ爲メ亦爲ス可
キ所アリ故ニ人ハ皆人ニ對シテ行ス可キノ務
アリトス

第六十二章

人ニ對スル務ハ次ノ二訓ヲ以テ其基本トス曰

箕作麟祥 譯述

力善訓蒙行編 卷中 一 名古屋學堂



舊書訓蒙前編 卷中 名古屋學校

ク

- 一 己ノ欲セサル所人ニ施ス勿レ
- 二 己ノ欲スル所之ヲ人ニ施シ人ヲ愛スル己ヲ愛スルカ如クス可シ

第一ノ訓誨ハ公道ヨリ生スル務ヲ云ヒ第二ノ訓誨ハ仁愛ヲ施スノ務ヲ云フ

第六十三章

人ニ對スル務ハ又之ヲ二種ニ分ツ其一ハ尊卑ヲ論セス總テ人ニ對シテ爲ス可キ務ヲ云ヒ其一ハ家人ニ對スル務國ニ對スル務及人ノ職分身位ニヨリ其爲ス可キ務ノ如ク人々各自ノ務

ヲ云フ

第一款 公道ヨリ生スル務

昭和十三年
二月五日
購求

第六十四章

公道トハ人ニ對シテ必ス爲ス可キ諸件ヲ行フ

ヲ云フ

第六十五章

人ノ害ヲ爲サズ人ノ財貨ヲ奪ハズ人ノ物品ヲ保有セズ人ノ物ヲ毀損セズ人ノ物ハ妄ニ之ヲ撫弄セズ人ヲ誑謗セズ人ノ徳ヲ稱シ人ノ善ヲ敬スルニ毫モ妬心ヲ懷カス總テ己ノ欲セサル所ヲ人ニ施サルハ公義ヲ守ラントスル者ノ

幼善訓蒙前編 卷中 名古屋學校

必務ナリ

第六十六章

人ニ對シテ行フ可キ務ノ首タルモノハ人ノ性命ト自主トヲ害セサルニ在リ
故ニ人ハ他人ヲ苦シメ他人ノ自主ヲ妨ケ他人ヲ禁制スルノ權ナク其權ハ國ノ律令ニ循ヒ惡人ヲ罰スル爲メ官府ニテ之ヲ行ヒ或ハ父母師傳其子弟ヲ戒ムル爲メ之ヲ行フ可キモノトス若シ其權ナキ者恣ニ之ヲ行フ時ハ官府必ス之ヲ譴罰ス

私闘

第六十七章

前章ノ教ト自裁ヲ禁スルノ教トヲ兼テ之ヲ思料スル時ハ私闘ハ嚴ニ禁ス可キモノタルヲ知リ得可シ蓋シ鬪争ヲ爲ス者ハ人ノ性命ヲ害スルニ非サレハ必ス己ノ性命ヲ害スルノ咎アリ故ニ人辱ヲ受ケタル時ハ我ヨリ彼ニ挑闘ス可ラス又彼ヨリ招闘スルト雖モ之ヲ肯ス可ラス人ヲ辱メタル時ハ直ニ悔悟シテ我カ爲ス所ノ罪ヲ謝ス可シ蓋シ此時ニ當リテ彼ノ怒ニ逆ヒ其挑闘ヲ肯シテ更ニ己ノ罪ヲ重ヌルヨリハ我ノ罪ヲ謝シテ彼ノ寛裕ヲ乞フヲ更ニ胆カアリ

トス

第六十八章

凡ソ人タル者ハ國ノ律令ト勸善ノ教トニ從ヒ
己ノ徳ヲ全フシテ人ノ益ヲ爲ス可キ者ナリ故
ニ苟モ人ヲ奴隸トナシテ其意ニ戾リ強テ之ヲ
苦逐スルハ國ノ律法ト勸善ノ教トニ背クノ大
罪ナリ

盜奪

第六十九章

人ノ務ハ唯他人ノ性命ト自主トヲ害セサルノ
ミヲ以テ足レリトセス人ノ所有スル品物モ亦

妄ニ之ヲ得ント欲スルコト勿レ訓誨ノ語ニ曰ク

人ノ財貨ヲ取ラント欲スルコト勿レ又人
ノ財貨タルヲ知リテ之ヲ保有スルコト勿

第十卷

他人ノ害ヲ爲サス又己ノ所有ニ非サル物件ハ
之ヲ其主ニ還與スルコト羅馬ノ古代ニ於テ既ニ
其律令在リ

盜奪ハ人ニ屬スル物件ヲ理ナクシテ己ノ有ト
爲スニアリ故ニ之ヲ嚴禁トス

人如何ニ窮乏ニ及フト雖モ他人ニ屬スル物ヲ
盜奪ス可ラス蓋シ貧人ハ固ヨリ撫恤ス可キ者

ト雖モ救貧ノ方法備ハリシ國ハ言ヲ待タス何
 レノ地ニ於テモ貧者己ノ赤貧ヲ以テ口實ト爲
 シ竊盜ヲ爲ス可カラス
 勸善ノ道ト國ノ法律トハ皆嚴ニ盜掠ヲ爲スヲ
 禁ス

子其父母ノ物ヲ盜ムニ於テハ勸善ノ道ニ背ク
 ノ罪更ニ重シトス

第七十章

人ノ家室及ヒ囊裏ニ在ル金銀家什ヲ奪フノミ
 ヲ盜トセス人ノ田野園庭ニ在ル菓實ノ類ヲ竊
 ムモ亦之ヲ盜トス

故ニ人ハ微物ト雖モ凡テ己ニ屬セサル物ヲ理

ナクシテ得シトス可カラス

背信

第七十一章

人ヨリ他ニ交付ス可キ爲メ我ニ托シタル金銀

貨財ヲ己ノ用ニ供スルハ法國ノ法律ニ之ヲ背

信ノ罪ト云ヒ盜罪ヲ犯スノ類ト爲シ嚴ニ之ヲ

罰ス

我ノ身位職務ノ如何ナルヲ問ハス人ヨリ附托

ヲ受ケタル財貨ハ決シテ己ノ用ニ供スルヲ勿

第七十二章

人ヨリ借りタル物ヲ還與セサルハ人ノ所有ノ
權ヲ奪フモノナリ故ニ亦盜ノ類トス

第七十三章

人ヨリ附托ヲ受ケシ物ヲ還與セサルハ是亦盜
罪ニ類スルモノニシテ之ヲ背信ノ罪トシテ譴
罰ス

第七十四章

人自カラ價額ヲ償フヲ能ハサルヲ知り酒樓客
舎ニ於テ飲食ヲ爲シ又ハ飾粧ノ品料ヲ買フハ
是亦盜罪ヲ犯スノ類ナリ

第七十五章

僕婢從者等其主長ヲ欺キ其買フ所ノ物件ニ過
多ノ價ヲ償ハシムルハ是亦背信ノ罪ニシテ盜
ノ類ナリ
又僕婢雇丁其主長ノ許可ヲ得スシテ私ニ他人
ノ役ヲ取り利ヲ得ルコトヲ謀リ又ハ其主長ノ命
スル所ヲ爲ス時陰ニ其事ヲ怠タル者ハ是レ又
背信ノ罪アリトス

第七十六章

賭博ハ固ヨリ之ヲ禁ス然レトモ賭博ヲ爲スニ
詭欺ヲ以テ勝チタル者ハ更ニ其罪ヲ重ヌル者

トス
此罪ヲ犯ス者ハ人ノ賤ミヲ受ケ且ツ法國ノ法律ニテハ一年乃至五年ノ間獄ニ繫キ之ノ懲罰ス

第七十七章

凡ソ人其債主ニ金ヲ還ヘシ其婢僕及ヒ雇丁ニ給金ヲ與ヘ貨物ヲ買ヒタル賈人ニ代料ヲ與フルハ勸善ノ道ト國ノ律令ト共ニ必ス之ヲ爲サシムルモナリ是我ノ彼ヲ使役シ或ハ彼ヨリ資益ヲ得ルニ因リ其報ヲ爲ス所ニシテ若レ其償ヲ爲サハル者ハ人ノ物件ヲ借リ之ヲ還與

セサルニ等シキ罪アリトス

債ヲ負フタル者費用ヲ節シテ其借額ニ因リ得

ル所ノ利益ヲ貯ヘス之ヲ無益ニ費ス時ハ其債

主ニ對シテ罪アリトス是其金ハ己ノ金ニ非ス

シテ其實ハ債主ノ金タルニ因レリ

古ハ波斯國人ハ債ヲ負ヒ之ヲ還濟セサル者ヲ

説謊者ナリトシテ賤ミタリ

遺失物ヲ見出セシ時ノ務

第七十八章

人市街等ニテ物ヲ拾ヒタル時ハ其國ニテ定ムル所ノ法式ニ循ヒ其物件ノ種類ト之ヲ見出シ

タル地トケケニ告知セシメ其所有者ヲ尋ヌ
可シ○法國ノ法式ニテハ大抵之ヲ新聞紙ニ記
シ又ハ鼓ヲ鳴シテ公告シ或ハ牧教師ニ乞ヒ講
臺ニテ其由ヲ來聽者ニ告知セシムル等ナリ

第七十九章

此ノ如ク公ケニ告知セシメシ後猶其所有者ヲ
知り得サル時ハ之ヲ丁寧ニ藏シ置キ日後其所
有者ヲ知り得タル時之ヲ還與ス可シ
藏シ置クヲ三十年ヲ經タル後ハ其見出シタル
者法律上ニテ其所有者タルヲ得可シト雖モ公
義ヲ守ル者ハ眞ノ所有者ヲ知り得タル時直チ

ニ之ヲ還與ス可シ苟モ之ヲ還與スルヲ肯セサ
ル者ハ善道ニ合ヒタルト謂フ可カラス

第八十章

遺失物ヲ見出シタル時其事ヲ公ケニ告知セシ
メ其所有者ヲ尋ヌルヲ爲サス陰ニ己ノ利益
ヲ謀ル者ハ竊盜ノ罪アリトス是レ其物ハ其實
之ヲ失ヒシ者ニ屬スルニ因レリ

第八十一章

若シ物件既ニ數年間埋没シテ其所有者ヲ知ル
可ラサルヲ分明ナル時ハ之ヲ見出シタル者其
所有者トナル可シ

若シ數年間埋没シタル物ヲ他人ニ屬スル土地
又ハ家屋ノ中ニテ見出シタル時ハ其土地又ハ
家屋ノ主ト其見出シタル者ト各其半ヲ分ツ可
シ

約ヲ守ル可キ務

第八十二章

人ニ物ヲ與ヘント約シテ之ヲ與ヘス人ト約シ
タル事アリテ其約ヲ踐サル者ハ是レ又人ニ害
ヲ爲スノ咎アリ凡ソ人ニ附與セント約シタル
諸物ハ其實既ニ我ニ屬セズニテ彼ノ所有ニ歸
スルニ因リ如何ニ其事ヲ後悔シ又ハ幾許ノ損

失アリト雖モ之ヲ其約ノ如ク行ハサルヲ得ス
故ニ國ノ法律勸善ノ教ニ循ヒ左件ヲ定ムルハ
宜ナリトス

互ニ誠意ヲ以テ爲シタル契約ハ其雙方
ノ間ニ在テハ猶法令ニ等シキ効アルモ
苟モ公道ヲ守ル者ハ争アル時其對手ヲシテ己

ノ契約ノ証書ヲ出サシムルヲ要セス自カラ
約シタル言詞ハ猶國ノ法律ニ等シク速カニ之
ヲ行フ可シ

第八十三章

入惡業ヲ爲サント約定スルハ是レ不善ノ一ニシテ又其約定ノ如ク實際ニ行フ時ハ更ニ其不善ヲ重ヌルノ理ナリ

第八十四章

故二人ハ正理ニ合ヒ行ヒ得可キ事ノ一之ヲ約シ其約ハ必ス正實ニ之ヲ守ル可シ

第八十五章

人其約シタル所ニ背クハ不善ノ甚シキモノトス蓋シ背約ノ者ハ必スシモ法律ニ於テ罰ヲ受クルコトナレト雖モ衆人ノ賤ニヨリ免ルコト能ハス故ニ人ハ幾許ノ利益アリトモ又ハ如何ナル

危難アリトモ又ハ性命ヲ危ウスルニ至ル可キ恐アリトモ一旦約シタル所ハ正シク之ヲ行ハサルヲ得ス

第八十六章

既ニ人ニ物件ヲ附與シテ復々之ヲ取還スハ猶盗罪ヲ犯スニ等シトス何トナレハ其物件ハ既ニ彼ノ有トナリ我ニ屬セス故ニ彼ノ承諾ナク之ヲ取還ス可カラサルニ因レリ

第八十七章

他人ノ財産ヲ不正ニ己ノ有ト爲シタル者ハ之ヲ還與シカメテ其損害ヲ償フ可シ

己ノ有スル物其實他人ニ屬ス可キ時ハ必ス之
ヲ還與ス可キノ務アリ蓋シ此務ハ己ノ爲メ幾
許ノ損失アリトモ之ヲ行ハサル可ラス古羅馬
ノ博士セリカ曰ク

我カ門ヲ開キテ我カ財産ヲ衆人ニ示シ
其財産中他人ノ討索スル物アラハ速ニ
携ヘ歸ル可シト言フヲ得ル者ハ眞ニ富
者ナリト稱ス可シ

第八十八章

他人ノ所有物ニ損害ヲ加フルナキヲ欲スルニ
ハ苟モ他人ニ屬スル家屋田野樹木等ハ毀傷損

害スルコトナク禾實ノ生シタル土地ハ妄ニ經過
スルコトナク墻塼ノ如何ニ毀壞ナルモノト雖モ
其圍繞シタル地ニハ入ルコト勿レ蓋シ土地所有
有者人畜ノ其地内ニ入ルヲ防カントスルノ意
ヲ知得ス可キ証アル時ハ縱令纜カニ一
竿一木ヲ用ヒ限界ヲ爲シタル地ト雖モ妄ニ其
内ニ入ル可ラス

第八十九章

此等ノ教ニ從ハス惡業ヲ爲ス者ハ唯勸善ノ道
ニ背クノミニ非ス又國ノ法律ニ背クニ因リ罰
金ヲ言渡サレ或ハ繫獄ノ刑ニ處セラレ可シ

妬心ヲ以テ人ノ材能善徳ヲ賤メ又ハ人ノ意思ヲ知ラスシテ其所行ヲ誅ル可カラス是亦公道ニ依附スル者ノ守ル可キ務ナリ

誅謗讒誣

第九十一章

誅謗トハ人ヲ謗リ人ノ名目ヲ損スル諸件ヲ言フニアリハ其内ニ人ノ面ヲ見テ其ノ言ヲ爲ス者ハ其誅謗セントスル者ノ面前ニ於テ之ヲ言フ一稀ニシテ大概其在ラサルヲ窺ヒ陰ニ之ヲ言フモノ多シ故ニ誅謗ヲ爲ス者ハ

怯懦ナル者ヲ以テ居多ナリトス蓋ヤ又ハ善ニ循フ者ハ戲言ト雖モ誅謗ヲ爲ス一ナシ

第九十二章

讒誣トハ惡業ヲ爲ハル者ヲ惡業ヲ爲シタリト言ヒ其徳望面目ヲ失ハシム可キ諸件ヲ詐リ説クヲ云フ故ニ讒誣ハ詭偽中ノ最モ甚シキモノニシテ唯、勸善ノ教ニ背クハ是ニ非ス亦國ノ法律ヲ犯スノ罪アルニ因リ其罰ヲ受クハ其ノ人ハ唯他人ヲ誅謗讒誣セサルノミヲ以テ猶未タ足レリトセズ縱令極密ト雖モ人ノ害トナル

可キ言詞ヲ用フ可カラス若シ朋友ノ之ヲ爲ス者アル時ハ之ヲ制止スヘシ凡ソ妄ニ人ノ惡ヲ舉ケテ之ヲ謗リ或ハ不善ヲ爲サ、ル者ヲ指レ之ヲ爲シタルト誣ル時ハ其産業ノ一部ヲ竊取レタルヨリ更ニ大害アリト不可シ

虚誕

第九十四章

自カラ事ノ偽ナルヲ知リテ之ヲ信誠ナリト言フヲ虚誕ヲ説ク下云フ又己ノ言ヲ可キ件々ヲ故ラニ言ヒ盡サス又ハ

己ノ説話スル所ニ偽説ヲ混淆スル時ハ是レ亦

虚誕ヲ説クノ一トス

故ニ公衙ニ於テ証人ノ陳フ可キ誓詞ハ左ノ如

シ曰ク

余誠實ヲ述ヘ盡ク誠實ヲ述ヘ誠實ノ外

述ヘサルヲ誓フ

第九十五章

虚誕ヲ説ク者ハ人ヲ欺キ己ノ惡業ヲ掩ハント

爲スニ因リ之ヲ大罪ヲ犯シタルトス可シ

第九十六章

虚誕ヲ説クハ固ヨリ天道ニ背クモノニシテ人

一旦此惡習ヲ得ル時ハ容易ニ之ヲ改ムルヲ能ハス故ニ戯ト雖モ虚誕ヲ説ク可ラス

第九十七章

常ニ虚誕ヲ説ク者ハ時アリテ信誠ノコトヲ言フト雖モ人之ヲ信受セス

誓詞

第九十八章

誓トハ己ノ述ル諸件又ハ己ノ爲ス約束ノ確的ナルヲ天ニ據テ証スルヲ云フ故ニ人誓ヲ爲ス時盡ク誠實ヲ述ヘ且ツ誠實ノ外述ハサル可キノ教ニ背クハ天ニ對シテ罪アリトス

第九十九章

誓ヲ爲スニ足ラサル細事ニ付テハ無益ニ誓ヲ爲ス可ラス平常誠實ノミヲ述ル者ハ事ニ臨テ信ヲ入ニ得ンカ爲メ誓ヲ爲スニ及ハス又屢詐偽ヲ言フ者ハ誓ヲ爲スト雖モ人之ヲ信セス故ニ誓ハ大事アリテ己ムヲ得サルニ至ル時之ヲ述フ可シ平日輕易ニ誓ヲ爲スヲ勿レ

第一百章

誓ハ至重ノモノ故法國審院ニテ證人誓ヲ述ヘ

タル後其詐偽タルノ發覺シタル時ハ平常十
年間囚獄ノ刑ニ處セラレ若シ本人更ニ嚴刑ニ
處セラレ可キ時ハ証人モ亦隨テ嚴刑ニ處セラ
ル故ニ誓ニ詐偽ヲ述ベタル証人ハ終身ノ徒刑
又ハ死刑ニ處セラル、トアリ

第百一章

國ノ法律ニテ詐偽ヲ述フル証人ヲ罰スル、ト斯
ク嚴ナルハ詐偽ハ人ノ惡ム可キモノタルニ因
レリ凡ソ詐偽ヲ言フ者ハ衆庶ノ忌嫌ヲ得誠實
ヲ言フ者ハ衆庶ノ尊敬ヲ受ク可シ

第百二章

古希臘ノゼノクラキスト云ハル學士ハ平生身
行正シテ詐偽ヲ言フヲナキカ故或時証人トナ
リテ審院ニ出テ規律ニ循ヒ誓ヲ述ヘントセシ
ニ審判之ヲ止メタリ是此人ノ言フ所常ニ偽リ
ナクシテ信ヲ衆人ニ得タルニ因レリ

第百三章

羅馬ノ將レギルムス兵ヲ率井テカルテ、ジヲ攻
メ戰敗レテ敵ニ虜セラレシ時敵兵レギルムスニ
其國ニ歸リ羅馬ヲシテ其汚辱トナル可キ和議
ヲ講セシムルニ盡力セハ之ヲ免ス可シ若シ其
和議整ハサレバ再ヒカルテ、陣ニ至リ俘

虜トナル可キヲ命レタリレギユムスハ其誓ヲ
込ヘ歸テ羅馬ノ京城ニ至リシ時羅馬ノ官吏等
和議ヲ講スルノ可否ヲ問フレギユムス答テ曰ク
必ス和議ヲ講スルコトナク奮戦ス可シト然ル後
嘗テ誓セシ如ク復々敵陣ニ赴キ縱容死ニ就キ
タリ是レ敵ニ爲レタル誓ト雖モ亦背カサルノ
龜鑑ナリ計ハ入ニ終クニ因レテ
又法蘭西トフランスト戦アリシ時法國王ト
ルプランドルノ老公ヲ征服スル能ハス百計盡キテ
外ランドルノ老公獄中ニ在リシヲ放チ自カラ
其國ニ至リ士民ニ法國ニ降ル可キヲ諭ス可

レト命レタリ老公法國ヲ去テ其國ニ至リ却テ
士民ニ法ト力戦ス可キヲ説キ死ヲ懼レス復
タ法王ノ陣ニ赴キテ擒ニ就キタリ
又法國王レヨシ第二世ボワチエノ戦ニ英軍
ニ敗ラレ俘虏トナリシ時三百萬エキトノ贖金
ヲ出ス可キノ約ヲ結ビ其身ヲ免ル、トテ得レ
カ當時法國ニテ其金額ヲ徵辨スルコト能ハサル
ニ因リ王已ムトテ得ス其子ヲ質トシテ英ニ送
レリ然ルニ其王子英國ヲ逃レ國ニ歸リシニ因
リ王信義ニ背クヲ恐レ復々自カラ英國ニ赴キ
テ擒ニ就キ終ニ英ニ於テ歿シタリトゾ

第百四章

慎重トハ他人ノ事ニ付キ輕易ニ談話評説ヲ爲
サズ殊ニ人ヨリ托セラレシ密事ヲ洩露セサル
ハ德ヲ云フ

第百五章

人ヨリ托セラレタル密事ハ之ヲ妄ニ洩ス可カ
ラス若シ之ヲ洩ス時ハ其人ニ對シ信義ヲ破リ
タルト謂フ可シ是恰モ人ニ屬スル物件ヲ妄ニ
我カ意ノ如ク爲シタルト其理等シケレバナリ

第百六章

官吏其國ノ密事ヲ洩シ工長^ヲ訂其製造ノ秘事
ヲ漏シタル時ハ國ノ法律ニ於テ之ヲ嚴刑ニ處
ス

好奇ノ意 書ヲ開封スル事

第百七章

人ヨリ委托ヲ受ケタル密事ハ之ヲ洩露ス可カ
ラサルト同一理ニシテ人ノ我ニ^{カク}隱蔽セント欲
スル密事ハ之ヲ知ラント要スル^{カク}嚴禁ナリ

第百八章

人ノ密事ヲ知ラントスルノ念甚シクシテ人ノ
書信ヲ開封スルニ至ル時ハ其咎大ナルニ因リ

名古屋學本

法律ヲ以テ之ヲ罰ス
智識ノ訓誨ニ曰ク

人ノ密事ヲ知ラント欲スルヲ勿レ

己ノ秘事ハヨクイラリ貌モトメナク之ヲ包メ

踐約

第百九章

踐約ハ人ニ對シ行フ可キ務ノ一ニシテ我カ嘗
テ約シタル地ト時トニ於テ其約シタル如ク精
細ニ事ヲ行フヲ云フ
凡ソ約ニ背ク者ハ人ニ損害ヲ加ヘ人ヲシテ無
益ノ時月ヲ費サレメ又人ヲシテ忿怒ノ意ヲ生

セシム

第百十章

人其父母師傅君長ニ對シテ約ニ背ク時ハ其咎
更ニ大ナリトス

顧恩

第百十一章

法國ノ學士ヲハルコノ曰ク

顧恩ハ善心ノ樂ミナリ

顧恩トハ己ニ益ヲ授ケル者ヲ常ニ思慕敬重シ
テ其恩ニ報ユルヲ云フ

第百十二章

力善川蒙前編

卷中

十八

名古屋學校

人ヨリ恩ヲ受ケタル時ハ必ス之ニ報ユ可キ
猶人ヨリ借リタル金貨ヲ還ス可キニ等シ

羅馬ノ學士セ子カノ曰ク
恩ヲ受ケテ之ニ報イサルハ恰モ人ヲ欺

テ財貨ヲ借リ家資ヲ分散シタル者ノ如

第百十三章

天ハ我ニ無量ノ恩ヲ授ケタルモノナリ故ニ我
其恩ヲ顧ミサル可ラス
父母ハ我カ幼稚ノ時愛育シタルモノナリ故ニ
我其恩ヲ顧ミサル可ラス

國ハ我カ衆人ト交ハル一付キ利益ヲ授クルモ
ノナリ故ニ我其恩ヲ顧ミサル可ラス

忘恩

第百十四章
忘恩ハ顧恩ニ反レテ己ノ受ケタル恩ヲ忘ル

第百十五章

忘恩ハ邪僻ノ心アル
貨ヲ故ラニ還サハルニ等シトス
負債者其還スヲ得可キ金

第百十六章

昔波斯國ニテハ忘恩ヲ重罪トシ人ノ恩ニ報ユ

ルカヲ得可キニ故ラニ之ヲ顧ミサル者ヲ嚴ニ
譴罰セリ是忘恩者ハ天ヲ敬シ父母ヲ尊ミ國ニ
報イ朋友ニ親ム等ノ事ヲ爲サバルニ因ル

第百十七章

方今ハ法律上ニ忘恩者ヲ罰スルコトナシト雖エ
衆人皆忌惡ス可キ不善者ト爲レテ之ヲ賤辱ス

第百十八章

縱令ヒ人我カ授ケタル恩ヲ忘ルト雖モ我レ
善ヲ爲スニ怠ル可ラス

私欲

第百十九章

私欲トハ其身ノミヲ愛重シ其身ノ事ノミヲ深
慮シ人ヲ顧サル不善ヲ云フ

第百二十章

人ノ此世ニ在ルヤ必ズ朋友ト交リ相敬愛シ相
扶助ス可キモノナリ故ニ私欲ノミヲ達セント
スル者ハ人ニ忌惡セラル
人私欲ノ甚シキニ及テハ唯己ノ身ノミヲ愛シ
父母兄弟親友ト雖モ捨テ全ク其恩ヲ顧ミサル
ニ至ル可シ

第百二十一章

前ニ記載シタル數箇ノ務ハ人ノ互ニ行フ可キ

公道ヨリ生スル務ナリ夫レ人苟モニ行ハズ
己ノ欲セサル所人ニ施ス勿レ
ト云ヘル訓誨ヲ忘レサレハ容易ニ其務ヲ行フ
トヲ得可レズ其ノ全ク其恩ヲ酬シサレ
古羅馬帝アレキサレドル此トハ此訓言
ヲ尊ニ其殿堂ノ牆壁及ヒ所々ノ宮室ニ之ヲ刻
ス記サレメタリト云ヘリ
人ハ此訓言ヲ常ニ思念シ之ヲ心ニ銘シテ忘ル
、ト勿レ百二十三章
公道ヨリ生シタル務ヲ守ルヲ誠實ト云フ

誠實ハ善美ナル徳ノ一ニシテ古學士ノ語ニ誠
實ナルハ尚ホ榮譽アルニ等シト言ヒモ亦宜
ナリトス

兒童教訓ノ語ニ曰ク

汝ノ好ム所ノ如何ナルヲ問ハス常ニ誠
實ノ心ヲ失フト勿レ

第二款 仁愛ノ務

國君人ヲ仁シ人ヲ愛スレハ士民皆之ニ倣フ
故ニ其國幸福ヲ受ク可シ

第百二十三章

人ノ務ハ公義ニ協ヒ他人ニ害ヲ加ヘス又己ニ

屬セサル物ヲ其主ニ還與スルノミヲ以テ足レ
リトセス亦仁愛ノ道ヲ行フ可シ

仁愛ハ其性命産業ヲ失ハントスル者及ヒ窮乏
ナル者ヲ扶助シ惡人ノ爲メ襲撃劫掠ニ逢フ者
ヲ保護シ老衰重病ニテ自カラ生計ヲ爲ス可シ能
ハサル者ヲ救濟シ不幸ナル者ヲ慰安スルニ在
リ

第百二十四章

古ノ訓誨ハ

正直ニ生業ヲ爲シ人ニ害ヲ加ヘス己ニ
屬セサル物ハ之ヲ其主ニ還ス可シ

又己ノ欲セサル所人ニ施ス可シ勿レ

トノ教ノミナリ

第百二十五章

然ルニ近世ノ訓誨ニハ人ノ務ノ中ニ仁愛ノ務
ヲ加ヘ

己ノ欲スル所之ヲ人ニ施シ人ヲ愛スル
己ヲ愛スルカ如クス可シ

トノ語ヲ増シタル章

古ノ人民ニモ既ニ此教ニ從ヒシ者アリテ「エジ
プト」ニテハ人ハ賊徒ニ襲ハル、ヲ見テ救ハザ
ルノ証アル者ヲ死刑ニ處シタルコトアリ

故二人ノ財産ハ之ヲ己ニ取ラス人ニ屬スル物
ハ之ヲ還與スルノミニテハ尚ホ全善トセス亦
人ヲ扶助シ勉メテ人ニ恩惠ヲ施スヲ要トス

第百二十六章

凡ソ四海中皆兄弟ニシテ人ノ出處人ノ性情人
ノ命運皆相等シキモノナリ故ニ人互ニ仁愛ス
可キト是レ其務ナリ

施恩

第百二十七章

施恩トハ人ニ善ヲ施スノ徳ヲ云フ

第百二十八章

セ子カノ曰ク施恩ハ人ニ幸福ヲ授クル好意ノ
行ナリ

第百二十九章

人ハ互ニ愛恤シ互ニ扶助ス可キ者ナリ故ニ施
恩ハ人タル者ノ務ナリ

第百三十章

人如何ニ窮乏卑賤ナリト雖モ他人ニ恩ヲ施ス
トテ得可シ
富貴ノ者ハ貧賤ノ者ヲ恤シ恩ヲ施ス可シ
財貨ヲ有セスト雖モ身體ノ壯康强健ナル者ハ
危難ニ逢フ者ヲ救ヒ重荷ヲ負フ者ヲ助クルト

ヲ得可シ是レ亦施恩ノ一ナリ

第百三十一章

人ニ恩ヲ施スハ常ニ正理ニ基ク可シ故ニ善惡ノ差別ナク濫リニ人ニ恩ヲ施ス可ラス是レ惡人ニ恩ヲ施ス時ハ却テ其惡ヲ助クルヲアルニ因レハナリ

第百三十二章

人ハ己ノ産業ト他人ノ窮乏トヲ比較シ以テ恩ヲ施ス可シ
施恩ノ務ヲ行フヤ誠實ノ意ニ出ル時ハ天ノ照覽ニ因リ自カラ天ヨリ之ヲ賞ス可シ故ニ恩ヲ

施スニ苟モ誇大ナル可ラス

教誨ノ語ニ曰クニ右ヨリ又ハ左ニ人ノ意ニ逆テ

右手ヲ以テ人ヲ惠ム時左手ハ之ヲ覺エ

サル如クナル可シ

人ハ己ノ恩ヲ施シタル者ヲ賤ミ又ハ其報ヲ得

ント要ム可ラス

人ニ恩ヲ施シテ之ヲ誇リ終ニ人ノ誅ヲ

受クル者ハ其施恩ノ徳ヲ失フタルモノ

ト謂フ可シ

人其朋友又ハ貧者ニ恩ヲ施シ毫モ其報ヲ得ン

トスルノ意ナキハ是レ施恩ノ旨趣トスル所ナリ

人ニ恩ヲ施スト雖モ後ニ其報ヲ得ントスルノ
念アル者ハ善ヲ行フニアラス唯恩ヲ交換スル
ノミ故ニ之ヲ稱譽スルニ足ラストス

好意

第一百三十三章

好意ヲハ人ニ善ヲ爲シ且ツ言詞及ヒ所行ニ因
リ人ヲ慰安スルノ意ヲ云フ

第一百三十四章

惡意ハ好意ノ反對ニシテ人ヲ困苦セシム可キ
ヲフ口ニ説キ身ニ行ヒ又ハ妄ニ人ノ意ニ逆フ
ヲ云フ

苟モ人ヲ仁愛セント欲スル者ハ慎テ惡意ノ生
スルヲ避ク可シ

復讐

第一百三十五章

人其過ヲ甘シテ自カラ恕スルカ如ク人ノ我ニ
加ヘシ害モ亦之ヲ宥恕ス可シ是天ニ對シテ行
フ可キ務ノ一ナリ

第一百三十六章

復讐ハ兇猛ノ性ヨリ生スル所ナリ古羅馬ノ博
理者ノ言ニ曰ク

人暴ヲ以テ暴ニ報イ復讎ヲ爲スハ恰モ
犬狗ノ相咬ムカ如シ

羅馬ノ「ドリアン」帝庶人タリシ時人ヨリ數多
ノ害ヲ受ケタリシカ帝位ニ昇リシ後皆其罪ヲ
免レ毫モ復讎ノ念ヲ生シタルナシ

古法蘭西ノ國王「路易」第十二世ハ「ブルボン」公
タリシ時仇敵多カリシカ王位ニ昇ルニ及ヒ皆
其罪ヲ免ルシテ曰ク

法蘭西ノ王トナル者ハ「ブルボン」公タ
リシ者ノ敵ニ復讎ヲ爲サスト

第三百三十七章

方今教ル所ノ仁愛ノ道ニ於テハ人ノ復讎ヲ禁
スルノミニ非ス恩ヲ以テ却テ怨ニ報ユルヲ人
ノ務トス

第三百三十八章

私欲復讎ヲ禁シ人ヲ愛スルヲ猶己ヲ愛スルカ
如ク人ヲ救助シテ仇敵ト雖モ恩惠ヲ施ス可キ
仁愛ノ務ヲ教ルハ是真ノ道ナリトス

第三款 無生物ニ對スルノ務

第三百三十九章

凡ソ世上ノ諸物ハ皆天ヨリ人ノ爲メニ創造シ
タルモノナリ故ニ人ノ之ニ對シテ行フ可キノ務

アリ

衆人共用ノ物又ハ己ニ屬スル物ヲ問ハス
妄ニ之ヲ損壞ス可カラス若レ衣服家什食物中ニ
己ニ要用ナラサル物アラハ之ヲ貧者ニ與フ可シ

第四百十章

人妄リニ樹木穀草ヲ毀損シ又蒸餅菓實及ヒ其
他有益ノ物ヲ徒ラニ棄ツルハ是天ノ賜物ヲ無
益ニ失フノ罪アリ若シ此等ノ物ヲ窮餒ノ者ニ
與フレハ恩惠ノ一端ナル可シ

第四百十一章

第四款 非有生物ニ對スル務
大令條 第四百十一章 並ニ於テハ人ノ野射ヲ禁

人有生物ニ對スル務ハ我有ト他人ノ有トヲ問
ハス食用ニ供ス可キ獸類ヲ徒ラニ苦メス又家
室ニ畜ヒ置ク可キ獸類ハ愛撫シテ飼養スルニ
在リ

第四百十二章

法國ノ刑律ニ故ナクシテ家畜ヲ傷ケ又ハ殺ス
者ハ一日乃至五日間之ヲ獄ニ繫キ且ツ五「フ」ラ
ンク乃至十五「フ」ランクノ罰金ヲ出サシムル規
則アリ

泰西勸善訓蒙卷之中終

